

# 第40期 決算説明会資料

2019年12月11日

**Si&C** 株式会社 システム情報  
Value Engagement Partner

# 目次

- I. 2019年9月期 決算ハイライト
- II. 2020年9月期 業績予想
- III. トピックス
- IV. 新規ビジネスへの取組み
- V. 中期ビジョン

## 参考資料

- ① 当社の概要
- ② 2020年9月期重点課題



# I. 2019年9月期 決算ハイライト

# I-1. 決算概要（連結）

## 損益計算書（連結）

単位：百万円（単位未満切捨て）

科目	2018年9月期		2019年9月期		前年 同期比
	金額	売上高比	金額	売上高比	
売上高	10,115	100.0%	<b>12,311</b>	<b>100.0%</b>	<b>21.7%</b>
売上総利益	2,078	20.5%	<b>2,540</b>	<b>20.6%</b>	<b>22.2%</b>
販売費及び 一般管理費	1,088	10.8%	<b>1,177</b>	<b>9.6%</b>	<b>8.2%</b>
営業利益	989	9.8%	<b>1,363</b>	<b>11.1%</b>	<b>37.7%</b>
経常利益	990	9.8%	<b>1,361</b>	<b>11.1%</b>	<b>37.5%</b>
当期純利益	703	7.0%	<b>917</b>	<b>7.4%</b>	<b>30.3%</b>
1株当たり当期 純利益（円）※	29.73	—	<b>38.79</b>	—	<b>30.5%</b>

※ 1株→2株の株式分割を考慮しております。

## I-2. 決算のポイント

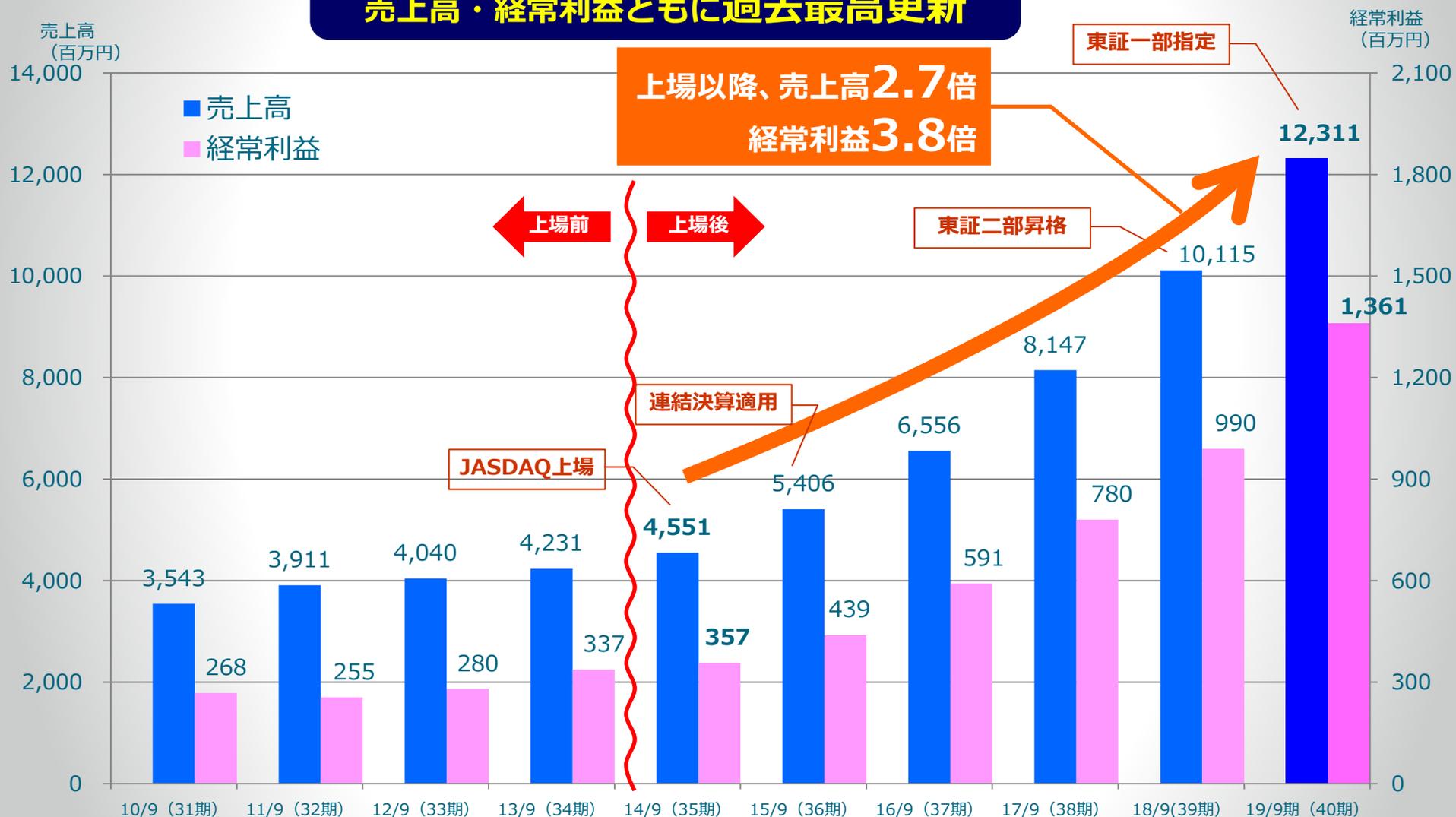
- ◆ スtockビジネスは、金融セクター中心に**安定的に増加**
- ◆ ソリューションビジネスは、AI、クラウド、RPA、情報セキュリティ関連の**新規案件を複数獲得**
- ◆ プロジェクト管理の徹底、パートナー企業との連携強化により**原価上昇を抑制、粗利率が上昇**
- ◆ 採用費増も他の**販管費を抑制**
- ◆ 連結子会社3社健闘、**売上高比率は前期の17%から20%へ拡大**



- 上場以降、売上、利益ともに6期連続で過去最高を更新
- 営業利益率、経常利益率ともに通期で初の二桁乗せを達成

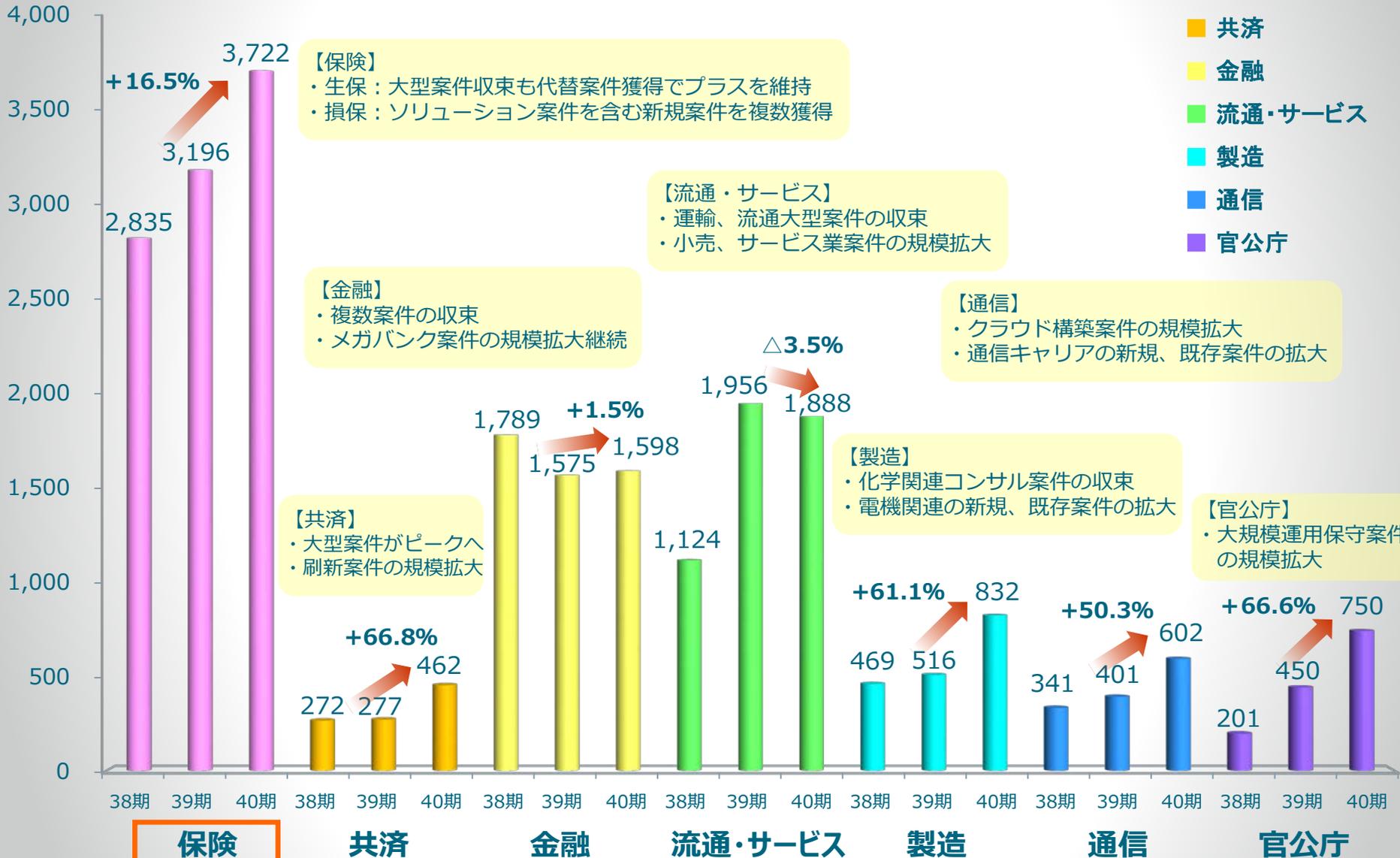
# I-3. 業績推移 (売上高・経常利益)

**9期連続増収・8期連続増益**  
**売上高・経常利益ともに過去最高更新**



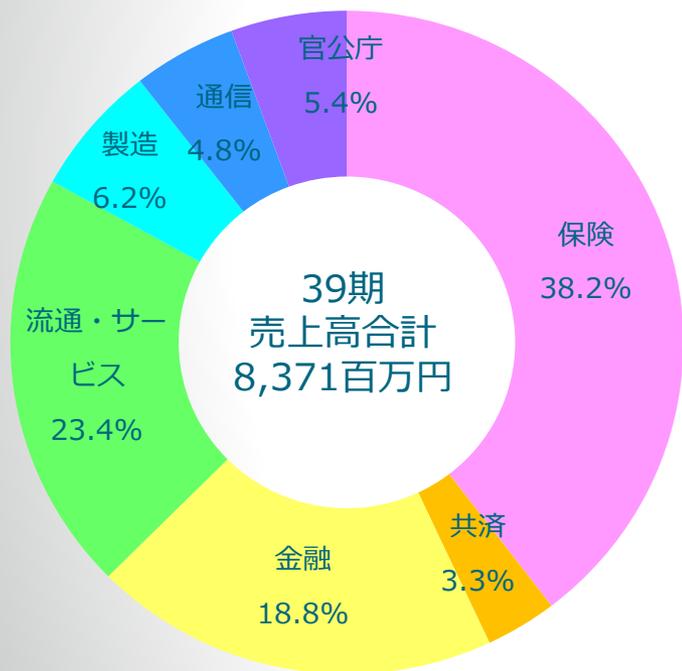
# I-4. 業種別売上高推移 (単体)

単位：百万円

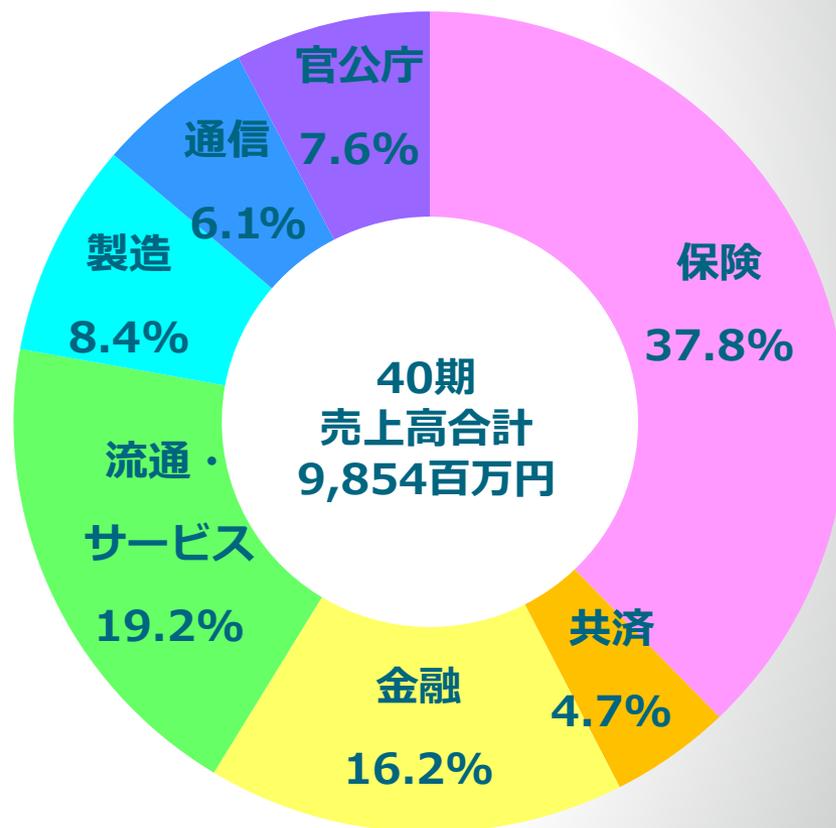


# I-5. 業種別売上高比率（単体）

39期  
業種別売上高



40期  
業種別売上高



# I-6. 財政状態 (連結)

## 連結貸借対照表

単位：百万円 (単位未満切捨て)

		2018年9月期	2019年9月期	増減	増減要因
	流動資産	3,375	<b>3,836</b>	461	(+) 現預金
	固定資産	1,311	<b>1,257</b>	△54	(-) のれん (-) 投資有価証券
	資産合計	4,686	<b>5,093</b>	407	
	流動負債	1,504	<b>1,673</b>	169	(+) 未払法人税 (+) 買掛金
	固定負債	189	<b>158</b>	△31	(-) 繰延税金負債
	負債合計	1,694	<b>1,832</b>	138	
	純資産合計	2,992	<b>3,261</b>	269	(+) 資本金・利益剰余金 (-) 自己株式
負債純資産合計		4,686	<b>5,093</b>	407	

自己資本比率  
**64.0%**

# I-7. 配当・株主還元の方針

配当性向目安 ← **30%** → | ← **35%** →



配当金額 (実績) ※2	22 <small>22</small>	15 <small>30</small>	22 <small>44</small>	15 <small>60</small>	18 <small>72</small>	<b>14</b> <small>112</small>
配当性向	30.6%	31.4%	31.0%	32.2%	30.3%	<b>36.1%</b>

▲  
株式分割 (1 : 2)

▲  
株式分割 (1 : 2)

▲  
株式分割 (1 : 2)

※1. 当社は、2015年7月1日に1株を2株の割合で、2017年6月1日に1株を2株の割合で、2019年5月1日に1株を2株の割合で株式分割を行っております。配当金額については、当該株式分割を考慮して算定しています。

※2. 右下枠内の数字は、株式分割を行わなかったと仮定した場合の配当金額になります。



## Ⅱ. 2020年9月期 業績予想

## Ⅱ-1. 業界動向

### 特定サービス産業動態統計調査

出典：経済産業省

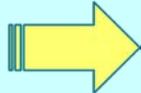
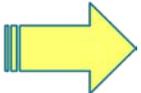
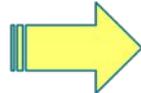
#### ◆ 情報サービス業 年度別売上高前年度比推移



#### ◆ 情報サービス業 月間売上高前年同月比推移



## Ⅱ-2. 当社における業種別見通し

業種名	2020年9月期の見通し	
保険		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生保：複数案件収束も、安定的な受注を確保</li> <li>・ 損保：複数の新規案件獲得で売上拡大</li> </ul>
共済		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サーバ更改、ホスト更改案件の継続</li> <li>・ 売上は前期並みを維持</li> </ul>
金融		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メガバンク中心に複数の新規案件獲得</li> <li>・ アプリ開発、証券案件の収束</li> </ul>
流通・サービス		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小売、サービス業案件の規模拡大</li> <li>・ 新規案件獲得もあり、売上は拡大を見込む</li> </ul>
製造		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電機関連更改案件の収束</li> <li>・ 自動車、電力関連案件は現状維持</li> </ul>
通信		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の保守案件は継続</li> <li>・ 通信キャリア案件の収束で売上は微減</li> </ul>
官公庁		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 更改案件の収束</li> <li>・ 新規大型案件獲得で、売上は拡大を見込む</li> </ul>

## Ⅱ-3. 2019年9月期業績予想（連結）

### 連結損益計算書

単位：百万円

科目	2019年9月期 (実績)		2020年9月期 (予想)		前期比 増減率
	金額	売上高比	金額	売上高比	
売上高	12,311	100%	<b>13,300</b>	<b>100%</b>	<b>8.0%</b>
営業利益	1,363	11.1%	<b>1,480</b>	<b>11.1%</b>	<b>8.6%</b>
経常利益	1,361	11.1%	<b>1,480</b>	<b>11.1%</b>	<b>8.7%</b>
当期純利益	917	7.4%	<b>1,000</b>	<b>7.5%</b>	<b>9.0%</b>
1株当たり 当期純利益	38.79	-	<b>42.79</b>	-	<b>10.3%</b>



# Ⅲ. トピックス (2019年6月～2019年11月)

## Ⅲ-1. トピックス

### 初の自己株式取得

#### 目的

経営環境の変化に対応した  
機動的な資本政策の遂行を可能とするため

#### 取得内容

300,000株（3.6億円）  
ToSTNeT-3 による買付

**総還元性向※は75%へ！**

※（配当金総額+自社株買い総額）/当期純利益

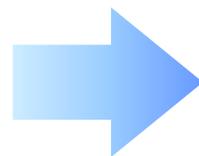
## Ⅲ-2. トピックス

### 「JPX日経中小型株指数」 構成銘柄に選定

#### ◆ JPX日経インデックス400のコンセプトを中小型株に適用

投資者にとって投資魅力の高い会社

- ✓ 資本の効率的活用
- ✓ 投資者を意識した経営



200銘柄選定



# JPX-NIKKEI Mid Small

### Ⅲ-3. トピックス

**「エス・アンド・アイ」株式会社との協業**

日本ユニシスグループ

当社開発の音声認識ソリューション「AI Meeting®」



搭載

「エス・アンド・アイ」社提供の「AI Conference」

協業

PC限定利用 ⇒ iPhoneでも利用可能  
活用シーン拡大による「働き方改革」の推進

## Ⅲ-4. トピックス

# 「RPA DIGITAL WORLD TOKYO 2019」 出展

RPAの理解から実践へ  
デジタルイゼーション取り組みの第一歩へ

# RPA DIGITAL WORLD TOKYO 2019

2019年12月9日(月)  
9:00～17:00  
東京国際フォーラム ホールE



## 当社出展内容

AI音声認識+RPA  
デモ展示

各社RPAソフト  
比較展示

多種多様な  
AI活用事例展示



# IV. 新規ビジネスへの取組み

# IV-1. 新規ビジネスへの取組み

## ソリューションビジネス展開加速



AI・コグニティブ  
サービス  
Cognitive Services

<具体的案件>

- ◆ 音声認識AIによるリアルタイム議事録作成
- ◆ 画像・動画認識AIによる物体検知・物体認識
- ◆ 知的財産探索AIによる資産検索
- ◆ RPA（WinActor・SynchRoid・UiPath）



情報セキュリティ  
サービス  
Security Services

<具体的案件>（官公庁・損保向け）

- ◆ セキュリティ製品設計・導入サービス
- ◆ セキュリティ運用監視（SOC※）

※Security Operation Center：セキュリティ監視を行う拠点



クラウドサービス  
Cloud Services

<具体的案件>

- ◆ パブリッククラウドの移行・構築
- ◆ ビッグデータ集積のための分析基盤の構築

## IV-2. 新規ビジネスへの取組み

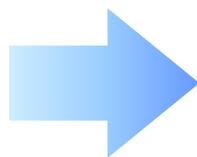
### コンサルティングビジネスの拡大

フィリピンのコンサルティング会社※と  
CMMI及びアジャイル関連サービスに関する協業を開始

※SQME Professionals, Inc. : フィリピンにおける唯一のCMMI Instituteパートナー

### フィリピンのIT市場

2019年  
51億米ドル



2023年  
81億米ドル (予)

※出典 : International Trade Administration

CMMIやアジャイル関連サービスの市場拡大



# V. 中期ビジョン

# V-1. 中期ビジョン～経営理念～

お客様の価値観を共有するパートナー

## Value Engagement Partner

システム情報（SIC : SYSTEM INFORMATION CO., LTD.）の掲げる経営指針（SI&C指針）

### SI&C 指針 ～私たちのあるべき姿～



真の価値あるITサービス  
を提供する企業



デジタルシフトによる変革  
のリーディングカンパニー

&



共創型のビジネスにより  
新たな市場を創造する企業

# V-2. 中期ビジョン～成長戦略～

## DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進に向けて (提供するサービス)

### エコシステム※2

双方向型の  
互恵関係による  
コラボレーション

商 材  
(プロダクト・  
サービスなど)

サービス  
(コンサルティング、  
アセスメント・プロ  
セス体系など)

事業活動  
(生産・物流・  
販売など)



コーディネート

- ※1) SICP Advanced  
従来のSICPにデザイン思考、リーンスタートアップ、アジャイル開発等を付加した拡張型当社開発標準
- ※2) エコシステム  
複数の企業が商品活動や事業活動でパートナーシップを組み、互いの技術やサービス、資本を活かしながら業界の枠を超えて、広く共存共栄していくための生態系
- ※3) デザイン思考  
デザイナーがデザイン業務で使う思考方法のプロセスを活用して、ビジネスなどにおける前例のない問題や未知の課題に対して最も相応しい解決を図るための思考法
- ※4) アジャイル開発  
ソフトウェア工学において迅速かつ適応的にソフトウェア開発を行う軽量な開発手法群の総称
- ※5) DevOps  
開発 (Development) と運用 (Operations) を組み合わせた造語で、開発担当者と運用担当者が連携して協力する開発手法。自動化ツール等を活用し、そのビジネス価値をエンドユーザーに継続的に提供し続けるための概念
- ※6) ファシリテーション  
会議、ミーティングなどの集団活動による問題解決やアイデアの創造、教育や学習など、有能な人材の相互作用を促し、あらゆる知的創造活動を支援し、成果を出しやすい環境の構築を目的とした働きを意味する
- ※7) リーンスタートアップ  
コストをそれほどかけずに最低限の製品や、最低限のサービス、最低限の機能を持った試作品を短期間で作り、顧客に提供することで顧客の反応を観察する方法

# ＜参考資料＞

① 当社の概要

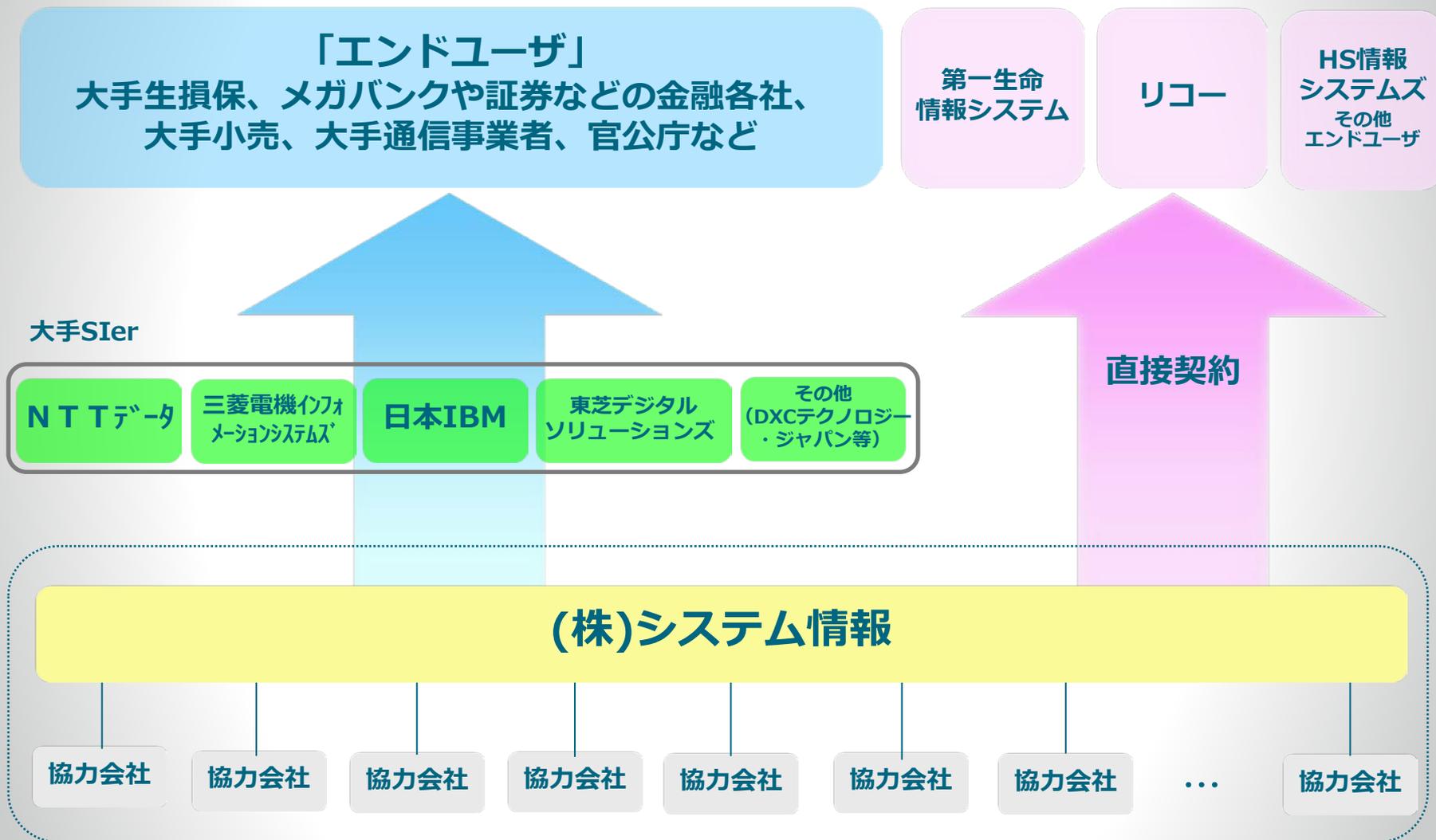
② 2020年9月期重点課題

# ①-1. 会社概要

社名	<b>株式会社システム情報</b>
設立	1980年（昭和55年）1月
事業内容	受託ソフトウェア開発
所在地	東京都中央区勝どき1-7-3 勝どきサンスクエア7階
資本金	502,636千円（2019年9月末現在）
代表	代表取締役会長 松原 春男 代表取締役社長 鈴木 隆司
主な株主	松原春男（13.7%）、（株）エイチエムティ（11.9%）、鈴木隆司（6.5%）、東京中小企業投資育成（株）（6.2%）、MSCO CUSTOMER SECURITIES（2.6%）（2019年9月末現在）
主要取引先	NTTデータグループ、三菱電機インフォメーションシステムズ（株）、第一生命情報システム（株）、東芝デジタルソリューションズ（株）、DXCテクノロジー・ジャパン（同）、日本アイ・ビー・エム（株）、（株）リコー、（株）HS情報システムズ、日鉄ソリューションズ（株）、日本ユニシス（株）
資格	<b>CMMI®レベル5</b> （2012年11月達成、2015年11月、 <b>2018年10月継続達成</b> ） ISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステム：ISMS）（2010年12月） ISO14001（環境マネジメントシステム）（2007年1月） プライバシーマーク（2005年12月）

# ①-2. SIビジネスの構造

【敬称略】



# ①-3-1. 差別化の原動力 (CMMI®)

CMMI®・・・開発能力(成熟度)を評価する国際標準

米国カーネギーメロン大学 (CMU) のソフトウェア工学研究所 (SEI) が開発したソフトウェア開発プロセスの能力成熟度モデル。組織のプロセス能力(成熟度)を5段階で評価し継続的な改善を促す、体系的なプロセス改善のためのモデル。現在ではソフトウェア開発能力を測る国際標準的な指標。

最高位レベル5に到達したプロジェクト管理力



# ①-3-2. 差別化の原動力 (CMMI®)

CMMI®レベル5 国内達成企業

2019年11月30日現在

## ◆株式会社システム情報

Software Development and Quality Management divisions

### ◆株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

Social Insurance First Generalization Section, Social Welfare IT Service Division, Public Sector

### ◆住友電気情報システム株式会社

Systems Solution Division 1st, 2nd and 3rd System Department

### ◆三菱総研DCS株式会社

System development Div. and Support Div. incl. projects supported by Touhoku Diamond Computer Service Co., Ltd. and HR Solution DCS Co., Ltd.

### ◆株式会社ジャステック

Software Development and related Departments

### ◆株式会社クロスキャット

Public System Division #1, Public Business Department

### ◆株式会社小野測器

Software Development Center

### ◆株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ

Embedded Software Development Group

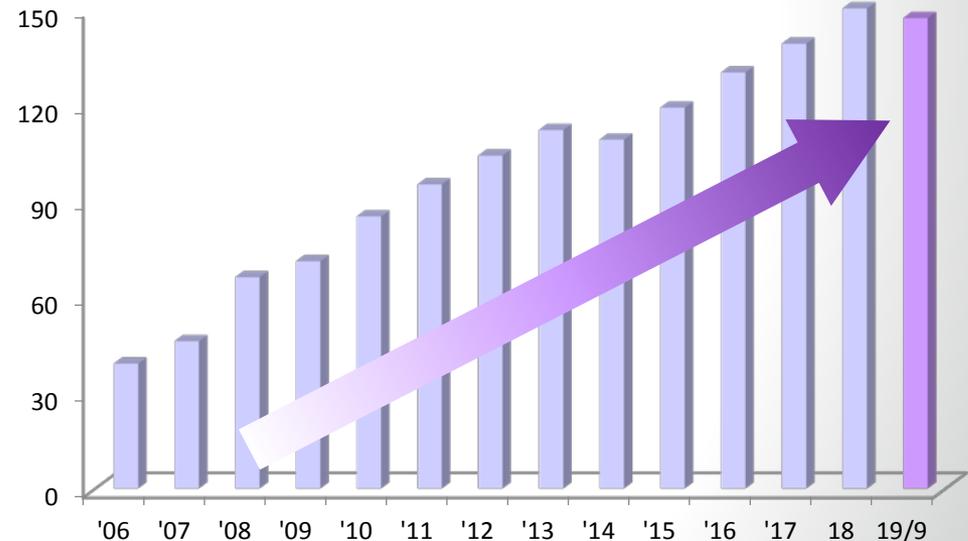
(注) 出典 : CMMI Institute 「Published Appraisal Results」 より

# ①-4. 差別化の原動力 (PMP®)

国際的資格 PMP® 保有者 群を抜く

米国 PMI (Project Management Institute) が認定するプロジェクトマネジメントに関する資格。  
PMIが発行する知識体系ガイド (PMBOK = A Guide to Project Management Body of Knowledge) に  
基づくプロジェクトマネジメントエリアに関する知識と理解度をはかることをその目的とする国際標準的な資格。

業界屈指のプロフェッショナル集団



# ①-5. 当社の強み

企業 : **CMMI® レベル5**  
(Capability Maturity Model Integration)

個人 : **PMP® 資格**  
(Project Management Professional)

お客様へ  
品質保証を担保

(グローバルな資格)

NTTデータと並ぶ  
資格保有率

147名※  
(32%)

※2019年9月末時点

開発標準 [**SICP**]  
(SI&C System Integration Control Process)

ベースは  
当社独自の開発標準

プロジェクト管理の徹底を推進

# ①-6. グループ体制

## 当社グループ体制

合計  
**695名**

※2019年9月末現在

**(株)システム情報**

従業員数：451名

**(株)イーエスエル**

従業員数：176名

**(株)SICデジタル※**

従業員数：44名

**(株)シンクスクエア**

従業員数：24名

※2019年4月1日  
関西システムソリューションズ(株)から社名変更

## ②-1. 2020年9月期の重点課題

### 安定成長に向けた取組み

SIer・エンドユーザとともにストックビジネス拡大に注力

ストックビジネス 長期間に亘って継続する案件

### 収益性向上への施策

プロジェクトレビューの実施（経営トップも参画、毎週実施）

プロジェクトの監視を徹底（問題点の把握、早急な対応）

不採算プロジェクト発生の未然防止

## ②-2. 2020年9月期の重点課題

### 人材の育成（資格取得支援体制の強化）

- PMP®資格取得率……………開発系社員の **50%超目標**
- 基本及び応用情報技術者…開発系若手社員 **必須目標**
- 高度情報技術者……………開発系中堅社員 **必須目標**

### 採用計画

グループ全体で**100名以上の採用目標**

（ご参考）前期採用実績：175名

**本資料には、当社の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。**

本資料に記載されている社名、製品名等は各社の商標または登録商標です。

＜IRに関するお問合せ＞

株式会社システム情報 経営管理部

電話番号：03-5547-5705

E-mail：ir@sysj.co.jp